

令和6年度		昭島市立福島中学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価【総括表】	
学校教育目標	○希望 ○創造 ○潤い	ビジョン	【目指す学校像】	○生徒が生き生きとして、自尊感情を高め、心を開ける学校○生徒・保護者・地域の願いに応え、ともに歩む学校○生徒・保護者・地域・教職員が安心でき、信頼し、躍進できる学校	
			【目指す児童・生徒像】	○自ら学び、自ら考える生徒　○他を思いやり、支え合う生徒　○責任をもち、やりぬく生徒	
			【目指す教師像】	○生徒を第一に考え、生徒の良さを伸ばす教師○自己の資質向上と健康管理に努める教師○和、礼、法を重んじ、信頼される教師	

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標		評価	成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	確かな学力の定着を図るために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善を進める。	言語活動や協働学習を通した深まりのある指導を実践する。	授業で、「つかむ・考える・広げる・深める」4ステップ授業を定着する。	4	深まりにつながる授業を行った	2	4	授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が90%以上	2	教え合いを活動を進め、さらに深まりを感じる授業をしていく。生徒が自ら探究するのに加えて、日常の生活と関連関連付けた発問の工夫を行った。	4ステップの授業を行い、引き続き、生徒が主体となって対話的学習をして内容の理解を深めてほしい。	2	深まりにつながる基礎基本の徹底の授業を進める。探究的な課題の設定や発問の工夫により、「深める」時間を設ける。
				3	「深める」ための授業の工夫を行った		3	授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が80%以上					
				2	主体的に対話的な授業の工夫を行った		2	授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が50%以上					
				1	個と集団を意識した授業を行った		1	授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が50%未満					
		考えを深めるための読解力と表現力を身に付けさせる。	国語科を中心に、読む・書く時間を確保するとともに、発表活動の場面を増やす。	4	深く読み、表現する授業を毎時間展開した	2	4	考え発表する体験が多いと感じた生徒が80%以上	2	考え発表できる生徒を増やしていく。生徒たちが協働して活動する場面や、生徒一人一人が発表する取組を行い、話し合い活動を活発にできた。	多くの生徒が発表の場を設けることで、深く読むこと考えを表現する場面を増やしていったほしい。	2	苦手意識のある生徒へのアプローチを工夫する。また発表しやすしい雰囲気を醸成していく。
				3	深く読み、表現する授業を7割以上行った		3	考え発表する体験が多いと感じた生徒が70%以上					
				2	授業では自分の考えを書く		2	考え発表する体験が多いと感じた生徒が40%以上					
				1	授業では読むこと書くことを大切にした		1	考え発表する体験が多いと感じた生徒が40%未満					
		主体的な学習習慣を基に、主体的に学びに向かう態度を養う。	授業のねらいと振り返りを行い、自ら意欲をもって授業や家庭学習を主体的に取り組む。	4	毎時間の振り返りを次時に生かす指導を行った	3	4	主体的な学習習慣が定着した生徒が90%以上	3	課題を小まめに出すことで、家庭学習の定着を図った。生徒一人一人が必ず発表する形をとり、他者と協働して発表内容をつくらことができ、主体的な学習を進めた。	ICT機器を活用しながらも、ねらいを示しながら生徒の主体の振り返りができるように取り組んでほしい。	3	課題の出題頻度を増やし、家庭学習の定着を図る。目標と振り返り記録させ、学習に生かしていく。
				3	毎時間のねらいと既習事項を関連付けた振り返りを行った		3	主体的な学習習慣が定着した生徒が80%以上					
				2	毎時間ねらいを示し、振り返りを行った		2	主体的な学習習慣が定着した生徒が50%以上					
				1	授業のねらいと振り返りを時々行った		1	主体的な学習習慣が定着した生徒が50%未満					
豊かな心	自己有用感を高めることで自尊感情を育み、お互いを大切に尊重できる人間関係を構築する。	考え、議論する道徳授業を実践し、よりよく生きる心を育てる。	①全教員が道徳授業を行う。②全教科で内容項目に関連付けて指導する。	4	生徒が考え、気付きのある発問を工夫した	3	4	自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が80%以上	3	全教員が実践し、考えを深める指導は継続する。発問は、毎回のワークシートで学年の実態に応じた授業づくりを行い、生徒が考え、気付きのある発問の工夫をした。	道徳公開は各学年で充実している。教材の工夫を進め、生徒の考えや意見を重点に取り組んでほしい。	3	生徒自身に気付きの時間を十分にとる。発問の工夫し、傾聴や意見を共有できる授業をする。
				3	教材解釈と教材の工夫を十分に行った		3	自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が70%以上					
				2	計画通りに22の内容項目を全て扱った		2	自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が50%以上					
				1	自分で教材理解をして年間35時間行った		1	自分を深める内容項目が2つ以上ある生徒が50%未満					
		一人一人を大切に尊重し、努力を認めて褒めることで自尊感情を育む。	傾聴、共感、認める、助言、実行、賞賛する生徒育成サイクルによる指導を実践する。	4	生徒育成サイクル指導の実践が定着した	3	4	教員は良さを認め伸ばしてくれと感じる生徒が90%以上	3	丁寧な生徒指導を意識し、多様性の尊重や傾聴、共感をし、認めるから助言につなげた。生徒の個性を大切にしつつ、努力をしたタイミングで賞賛し自尊感情を育んだ。	生徒育成サイクルを進め傾聴、共感の姿勢を実践して、一人一人の大切さを感じさせるようにしていく。	3	やり取り帳の活用、コミュニケーションを大切にしてい。生徒が主体となることができる活動を取り入れていく。
				3	傾聴、共感、認めるから助言につなげた		3	教員は良さを認め伸ばしてくれと感じる生徒が85%以上					
				2	傾聴、共感をし、認める努力をした		2	教員は良さを認め伸ばしてくれと感じる生徒が50%以上					
				1	傾聴せずに、すぐ指導・説諭をする		1	教員は良さを認め伸ばしてくれと感じる生徒が50%未満					
		気持ちよい挨拶や返事を通して、お互いが快適に過ごせる人間関係を築く。	自らすすんで挨拶や返事をする習慣を付けさせる。	4	学校内外では教員自ら挨拶や声かけを行った	3	4	学校内外で、すすんで挨拶できる生徒が80%	3	すすんで挨拶ができる生徒はいる。挨拶の良さや必要性を伝えてはいるが、まだ定着できない。教員からの挨拶は継続して行っている。	校内での挨拶はよくしている。学校外でも進んで挨拶する習慣、大切さを伝える取組をしてほしい。	3	継続して指導していく。校内や校外でも教員自ら生徒に挨拶をする。気持ちのよい言葉遣いの指導をする。
				3	学校生活での挨拶・返事の指導を徹底した		3	学校内で、挨拶・返事ができる生徒が80%以上					
				2	授業中の挨拶・返事の指導を徹底した		2	学校内で、挨拶・返事ができる生徒が50%以上					
				1	挨拶・返事の指導を時々行った		1	学校内で、挨拶・返事ができる生徒が50%未満					
健やかな体	自らの生活を健康的で健全にするために、体力向上を図り、規則正しい生活を送る。	年間を通して健康に過ごすための基礎体力・持久力の向上を図る。	一人一人に体力向上における目標を設定させ、主体的に運動する習慣を身に付ける。	4	一つ一つの運動の効果や取組方法を徹底指導した	3	4	運動を主体的に取り組む生徒が90%以上	3	部体の授業では全体と個人の目標をそれぞれもたせ、目標達成に向けて取り組ませている。持久力について指導の効果が現れてきている。	部活動等でも運動する習慣の大切さを教えてほしい。継続して健康に過ごすための取組方法を指導していく。	3	授業、部活動でも継続して指導やサポートをしながら、生徒が主体的に取り組める工夫を進めていく。
				3	体力向上のために個に応じた方法を指導した		3	運動を主体的に取り組む生徒が70%以上					
				2	体力向上の意義と取組み方法を指導した		2	運動を主体的に取り組む生徒が50%以上					
				1	体力向上のための指導した		1	運動を主体的に取り組む生徒が50%未満					
		食事や睡眠を大事にし、自らの健康増進に努める生徒を育てる。	給食を残さず食べる指導を行い、保護者には早寝・早起き・朝ご飯の協力を求める。	4	学級で食の大切さと残さず食べる指導を徹底した	3	4	全校で1か月の平均残菜率が5%以下	3	栄養士から給食の時間に食育につながる話を行った。残食を減らせるよう、声掛けや配膳している。バランスのとれた食事が健康増進につながることを生徒に伝えた。	引き続き、健康的で規則正しい生活を送るために、食の大切さ、睡眠の必要性を指導していく。	3	委員会と栄養士を連携しながら、食事の重要性や食物や作ってくださる方への感謝ができる取組を進める。
				3	学級で食の大切さと残さず食べる指導をした		3	全校で1か月の平均残菜率が7%以下					
				2	学級で残さず食べる指導に取り組んだ		2	全校で1か月の平均残菜率が8%以下					
				1	学級で食育指導を定期的に行った		1	全校で1か月の平均残菜率が8%前後					
		SNSの利活用について考え、規則正しい生活を送らせる。	SNS学校ルールの定着及び家庭ルールの作成・定着を徹底する。	4	SNSルールの徹底を家庭に指導した	3	4	SNSルールが定着した生徒が80%以上	2	SNSの利用は、三者面談での話題、学年集会や学年通信を通じて注意喚起や指導を行った。また自分を守るために大切なことを考えさせる指導を行った。	学校、過程ともにルールが定着できるように取り組んでいく。正しい使い方を継続して指導してほしい。	3	正しいSNSの利用方法や端末の長時間使用に伴う視力低下やストレートネック等の予防に関わる指導を行う。
				3	SNSルールを学級で指導・徹底した		3	SNSルールが定着した生徒が50%以上					
				2	SNS家庭ルールの作成を学級で指導した		2	SNSルールを意識している生徒が50%以上					
				1	SNS学校ルールを学級で指導した		1	SNSルールを意識している生徒が50%未満					
輝く未来	家庭・地域との連携を進め、将来にむけて確かな夢をもてるような人格形成を図る。	家庭・地域との信頼関係を深めるために情報発信を行い、意見を求める。	学校・学年だよりの発行、ホームページの更新を毎月行い、読者意見に丁寧に対応する。	4	毎月発行・更新し、地域からの意見に対応した	3	4	学校の教育活動に安心している保護者が90%以上	3	定期的に、学年だよりを発行し、生徒・保護者に学年の方向性を取組を発信した。保健だよりで月1回、生徒の健康増進に向けた情報の啓発を行った。	学校だよりにより、学校の様子が伝わってくる。家庭との信頼を深めるため、情報発信を継続していったほしい。	3	学年だより等を定期的に、情報発信を継続していく。情報の取り扱いについて注意しながら、発信を行っていく。
				3	学校・学年だよりとHP更新は毎月1回以上行った		3	学校の教育活動に安心している保護者が80%以上					
				2	学校・学年だよりは毎月1回以上発行した		2	学校の教育活動に安心している保護者が60%以上					
				1	学校だよりは毎月1回以上発行した		1	学校の教育活動に安心している保護者が60%未満					
		キャリア教育によって夢をもち、実現に向け努力する生徒を育成する。	総合的な学習の時間及び進路学習を通して、将来について具体的に考えさせる。	4	将来の夢の実現に向けた計画づくりを指導した	3	4	夢に向けてキャリアプランを作った生徒が50%以上	3	総合的な学習の時間等を通じ、将来展望についての実践を図ることができている。職場体験、進路学習を通して、将来の生き方を考える時間を設けることができている。	職場体験の継続と充実や、将来の自分を考えながら、夢を具体的にもてるような場を継続して作っていった。	3	進学だけではなく、将来を考えられる指導を行う。興味がある物や夢について考えさせる授業を行う。
				3	将来の自分を考えさせる指導を行った		3	将来の夢を具体的に考えた生徒が80%以上					
				2	自分の良さや適正を知る指導を行った		2	将来の夢を見付けるために進路学習を行った					
				1	働く意義や職業について考えさせる		1	将来の夢を見付けるために進学先を考えた					
		9年間を見通した計画的な指導を行い、地域との関わりを深めていく。	福島中グループの小中連携教育における3つのスタンダードを定着する。	4	スタンダードを周知・徹底し、小学校との実践を深めた	2	4	スタンダードを実践し定着した	2	小中連携をもとに、指導に関することを考えることができた。授業の進め方は安定し、落ち着いた授業を行うことができている。学校だより等を活用して、周知を行った。	補導連絡会、地区連絡会等を通して深められている。小中連携を通して情報交換や関わりを深めてほしい。	2	スタンダードを確認した後、共通理解、共通実践を目指していく。
				3	スタンダードを徹底するために家庭協力を求めた		3	スタンダードを生徒・家庭が実践した					
				2	スタンダード定着に向けクラスで指導・徹底した		2	スタンダードを家庭が理解できた					
				1	スタンダードの内容を生徒に理解させた		1	スタンダードを生徒が理解できた					